登録番号　環文-08

環境経営レポート 2023

（対象期間：2022年度⇒2022年11月～2023年10月）

発行2023年12月20日

SANSHIN
production of the precision parts

私たちは、地域と地球の環境に配慮した事業者です
®環境省
エコアクション21
認証番号0000568

三鎮工業株式会社

目　次

【１】会社の概要　1ページ

【２】環境経営方針　2ページ

【３】環境経営目標と実績　3ページ

【４】環境経営計画とその取組結果と評価　4ページ

【５】代表者による全体評価と見直しの結果　7ページ

【６】次年度の環境経営目標及び環境経営計画　8ページ

【７】環境関連法規への違反、訴訟等の有無　9ページ

【１】会社の概要

(1) 事業所名及び代表者名

サンシンコウギョウ　カブシキカイシャ
三鎮工業株式会社

代表取締役社長　山田（ヤマダ）　浩司（ヒロシ）

(2) 事業所住所

本　　社　〒205-0023 東京都羽村市神明台4-10-10
第二工場　〒205-0002 東京都羽村市栄町3-3-5（2022年11月設置）

(3) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

責任者	代表取締役社長	山田　浩司
担当者	環境管理責任者	山田　浩司（兼任）
連絡先	電話番号	０４２－５１３－０７１８（本社）
	FAX番号	０４２－５１３－０７１９（本社）
	E-mail	info@sanshin-i.com
	ホームページURL	https://sanshin-i.com
	facebook	https://www.facebook.com/sanshinkogyo/

(4) 事業の内容

光学機器、空調機器、医療機器、自動車、カーナビ
デジカメ、モーター等に使われる精密金属部品の挽物加工

(5) 事業の規模

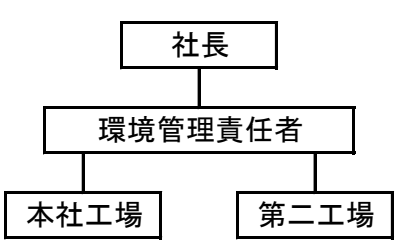
2023年10月決算	本社工場	第二工場	合計
従業員数	32名	6名	38名
敷地面積	1,652.90㎡	1,883.25㎡	3,536.15㎡
建物面積	1,760.53㎡	2,149.88㎡	3,910.41㎡
売上額(税抜)	1,151百万円	160百万円	1,311百万円
製品売上高	839百万円	141百万円	980百万円
切粉売上高	303百万円	19百万円	322百万円

※その他、商品売上9百万円

(6) 認証・登録の範囲

全社（本社工場・第二工場）
全活動（金属機械加工）

(7) 環境実施体制



【２】環境経営方針

環境経営理念

私たちは、エアコンや自動車等の小径精密切削部品を製造する事業活動において常に改善活動を行うことで省資源、省エネを推進し、時代と共に多様化するお客様のニーズに柔軟にお応えできるよう取り組んでまいります。

そして、皆様に「信用される会社」「必要とされる会社」であり続けられるよう努力を重ねてまいります。

行動指針

1. 私たちは、全ての事業活動において生じる、環境への負荷を低減するために環境経営システムを確立し、環境活動の継続的改善を行います。

2. 私たちは、全ての部門で二酸化炭素排出量の削減、購入電力の削減、廃棄物排出量の削減、水使用量の削減、化学物質使用量の削減、そして自らが生産・販売する製品の環境性能の向上及びサービスの改善について取り組みます。

3. 私たちは、環境に関する法律、規制、及び当社が合意するその他の要求事項を遵守し、地球環境との調和、並びに汚染予防に努めます。

4. 環境経営方針は、全ての従業員、及び当社に関わる人々に周知され、環境保全活動推進への意識を高め、よき地域住民として地域社会に貢献します。

5. 環境経営方針は、エコアクション21の環境経営レポートの一部として、広く一般に公表します。

制定　2006年1月16日
改訂　2019年1月25日

代表取締役社長
山田 浩司

【３】環境経営目標と実績（2022年11月～2023年10月の月平均値）

◎ 目標達成　○ 詳細項目を最低1つは達成 →詳細は【6】参照　× 目標未達成

● 2017年度版ガイドラインに則った取りまとめ表にて算出した数値を基に、環境経営目標を設定している。

全社	環境経営目標	目標値	結果	評価
1(1)	二酸化炭素排出量の削減※ [kg-CO_2/売上百万円]	第二工場の電力が排出量0ではない為 1年間の結果を受けて来期の目標設定	148.46[kg-CO_2/売上百万円] 目標は【6】に記載	○
1(2)	購入電力の削減 [kWh/売上百万円]	2020年度の月平均－1%以下 884.17	1143.51 [kWh/売上百万円] 目標値＋29.3%	×
2	廃棄物等排出量の削減 [kg/売上百万円]	2020年度の月平均－1%以下 6.81	5.43 [kg/売上百万円] 目標値－20.3%	◎
3	水の使用量の削減 [ℓ/売上百万円]	2020年度の月平均－1%以下 268.68	341.08 [ℓ/売上百万円] 目標値＋26.9%	×
4	化学物質使用量の削減 [kg/売上百万円]	2020年度の月平均－1%以下 5.63	5.37 [kg/売上百万円] 目標値－4.7%	◎
5	製品及びサービスの向上 不適合品比率[%]	不適合品比率（不良品／製作数） 1.00	1.22 [%] 目標値＋22 [%]	×

計算根拠※ 昨年度（2021年度）は期中に第二工場が仮操業となり、1年を通してのデータが取れていない

※ 購入電力の排出係数 ⇒本社工場 :0.000kg-CO_2/kWh ／ 第二工場:0.452kg-CO_2/kWh

◆ 二酸化炭素総排出量 : 192,857.61 kg-CO_2

◆ 購入電力総量 : 1,487,111.00 kWh

◆ 廃棄物総排出量(有価物以外) : 7,130.30 kg（一般廃棄物:3,780.30 kg ／ 産業廃棄物:3,350.00 kg）

◆ 水の総使用量 : 444 ㎥

◆ 化学物質総使用量 : 7,000 kg

◆ 原単位で使用する総売上高は、製品＋切粉売上のみ : 1,302百万円

⇒月々原単位にて算出し、それを平均した数値を使用

● 上記の全社目標を達成するため、本社工場及び第二工場の目標値を次のように設定した。

本社工場	環境経営目標	目標値	結果	評価
1(1)	二酸化炭素排出量の削減※ [kg-CO_2/売上百万円]	2020年度の月平均－1%以下 10.09	10.26 [kg-CO_2/売上百万円] 目標値＋1.7%	○
1(2)	購入電力の削減 [kWh/売上百万円]	2020年度の月平均－1%以下 884.17	954.21 [kWh/売上百万円] 目標値＋7.9%	×
2	廃棄物等排出量の削減 [kg/売上百万円]	2020年度の月平均－1%以下 6.81	5.23 [kg/売上百万円] 目標値－23.2%	◎
3	水の使用量の削減 [ℓ/売上百万円]	2020年度の月平均－1%以下 268.68	312.59 [ℓ/売上百万円] 目標値＋16.3%	×
4	化学物質使用量の削減 [kg/売上百万円]	2020年度の月平均－1%以下 5.63	4.76 [kg/売上百万円] 目標値－15.5%	◎
5	製品及びサービスの向上 不適合品比率[%]	不適合品比率（不良品／製作数） 1.00	1.12 [%] 目標値＋12 [%]	×

※ 昨年度データは、本社工場と第二工場が部分的に合算されてしまっているため、2020年度比で設定

※ 購入電力の排出係数 ⇒0.000kg-CO_2/kWh（プレミアムグリーンパワー㈱）

第二工場	環境経営目標	目標値	結果	評価
1(1)	二酸化炭素排出量の削減※ [kg-CO_2/売上百万円]	1年間のデータ収集を元に 次年度の目標を立てる	1,177.61 [kg-CO_2/売上百万円] 目標は【6】に記載	○
1(2)	購入電力の削減 [kWh/売上百万円]	1年間のデータ収集を元に 次年度の目標を立てる	2,603.01 [kWh/売上百万円] 目標は【6】に記載	○
2	廃棄物等排出量の削減 [kg/売上百万円]	1年間のデータ収集を元に 次年度の目標を立てる	6.99 [kg/売上百万円] 目標は【6】に記載	○
3	水の使用量の削減 [ℓ/売上百万円]	1年間のデータ収集を元に 次年度の目標を立てる	565.07 [ℓ/売上百万円] 目標は【6】に記載	○
4	化学物質使用量の削減 [kg/売上百万円]	1年間のデータ収集を元に 次年度の目標を立てる	10.72 [kg/売上百万円] 目標は【6】に記載	○
5	製品及びサービスの向上 不適合品比率[%]	不適合品比率（不良品／製作数） 1.00	1.53 [%] 目標値＋53 [%]	×

※ 昨年度中に仮操業を開始したため1年間を通してのデータが無く、データ収集から始める

※ 購入電力の排出係数 ⇒0.452kg-CO_2/kWh（東京電力エナジーパートナー㈱）

前頁に目標を記載したが、昨年度の特殊な事情について補足しておくと、2020年度末の段階では2022年の4月頃に第二工場を立ち上げる予定であった。しかし、購入した建物の状態に問題があったり、コロナ禍での増改築であるための資材調達問題があったりで、予定通りの引き渡しが難しい状況となってしまった。ところが、発注済みの機械設備の納品や得意先からの受注は止めることが出来ないため、増改築している第二工場の傍らにスペースを取り、機械加工のみの仮操業を行うこととなった。
実際に増改築が終わり、建物の引き渡しを受けたのは2022年10月末日である。

よって昨年度は、第二工場で加工・洗浄した製品を本社に運び、検査・出荷を行わなければならず、本社と第二工場を完全に分離した状態で管理することが不可能であり、分けて評価できる部分と、全社でしか評価できない部分が混在していた。

今年度に関しては、スタート時、出荷を本社に移動してから行わなければならない形ではあったが、生産管理システムのアップデートにより本社工場と第二工場の売上を分けて計上管理することが可能となり、1年間の正しいデータ収集が行える体制は構築されている。

【４】環境経営計画とその取組結果と評価

（2022年11月～2023年10月）

1(1)、二酸化炭素排出量の削減

◎ エコドライブを意識する

今年度は売上が減少し自車での納品が減った。しかし、この流れを断ち切るために、11月に営業担当を1名採用し各社へ営業を行った。また、第二工場との往復が増えたため、結果としてガソリンの使用量は3年間ほぼ同水準となっている。

年間二酸化炭素排出量[kg-CO_2]

	2020年度	2021年度	2022年度	昨年度比
ガソリン	11,737.56	11,451.32	11,399.96	-0.4%
本社　ガス	448.36	206.79	281.31	＋36.0%
第二　ガス	0.00	0.00	152.15	－
総排出量	12,185.92	11,658.11	11,833.42	＋1.5%
製品売上※	1,240.05	1,655.63	1,302.73	-21.3%

※ 単位:百万円

◎ 新たな省エネ策の検討と実施

今年度は、12月より第二工場にガスが通ったため、工場間で比べることも可能になった。そして使用量が、4月にほぼ同量、5月には第二工場の方がかなり多い状況となり、使用状況や従業員数等を考慮すると、ガス漏れではないかと問合せを行ったが、ガス漏れではなかった。その際に合わせて、ガスの使用量を減らす方法を質問したところ、次の回答を得られた。

①給湯器のリモコン電源をOFFにすること
②コンロの元栓を閉めることの2点とのこと

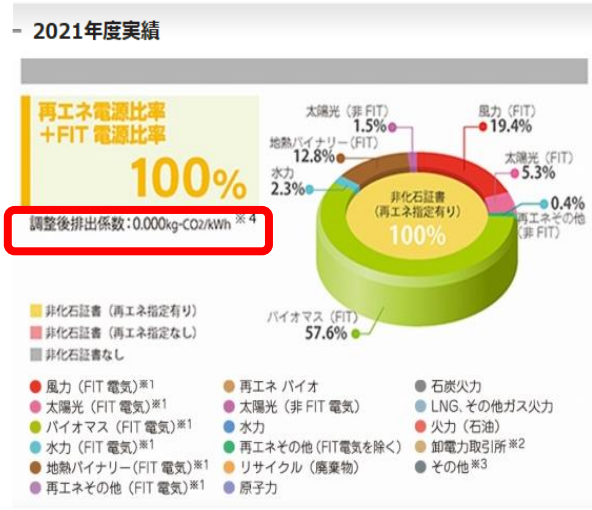
①については、両工場ですぐに開始した結果、使用量0㎥の月が両工場でそれぞれ3回、1㎥未満の月が本社で3回、第二で1回と大きな効果を発揮した。②については、本社では毎日ガスコンロを使用するため実施不可能であり、第二工場では既に実施済みであった。

評価　ガソリンとガスに関しては、 毎年個人目標を食堂に掲示することで従業員がお互いに意識し合い、結果が出ていると感じている。ガス屋さんに問い合わせた点も良かった。しかし1点ガスの使用量が増えた理由としては、仕事が減っていた1月から3月の寒い時期に各所の徹底掃除を行ったため、お湯を多く使用したことが挙げられる。
結果、目標は未達成だが、得られたものがあり、売上が回復すれば達成する見込み。
電力による二酸化炭素排出量については、1(2)に記載する。

1(2)、購入電力の削減

※　今年度も本社工場はプレミアムグリーンパワーを継続利用しているため、再生エネルギーを活用した電気（右図参照）を利用することで、電力消費による二酸化炭素排出量が 0kg-CO2 を実現している。そこで、電力のムダ遣いを抑制するために、購入電力の管理を実施している。
第二工場は、東京電力エナジーパートナー（排出係数:0.452 kg-CO2/kWh）との契約を継続中。

※　今年度は第二工場が本格始動となったが、受注の低迷を受け、本社工場の機械稼働率は1年を平均して57%、第二工場においては31%となっている。
来期、ここから機械稼働率が上昇していくと、電気使用量・二酸化炭素排出量は増えてしまう見込みである。



○ デマンド監視装置による節電

前頁で記載した通り機械稼働率が落ちており、デマンド監視装置が鳴ることは無かった。しかし、今思えばデマンドの設定を下げて、ムダを抑えられる仕組みを構築すべきだったと思う。

○ 営業日の調整

休日出勤だけでなく残業時間の管理もしようと、2022年10月より製造部で試験的に残業申請制を導入。これを導入することでムダな残業を削減できるだけでなく、自分の仕事にどれ位の時間が掛かるかを見極める力を付けることも出来ると考えた。

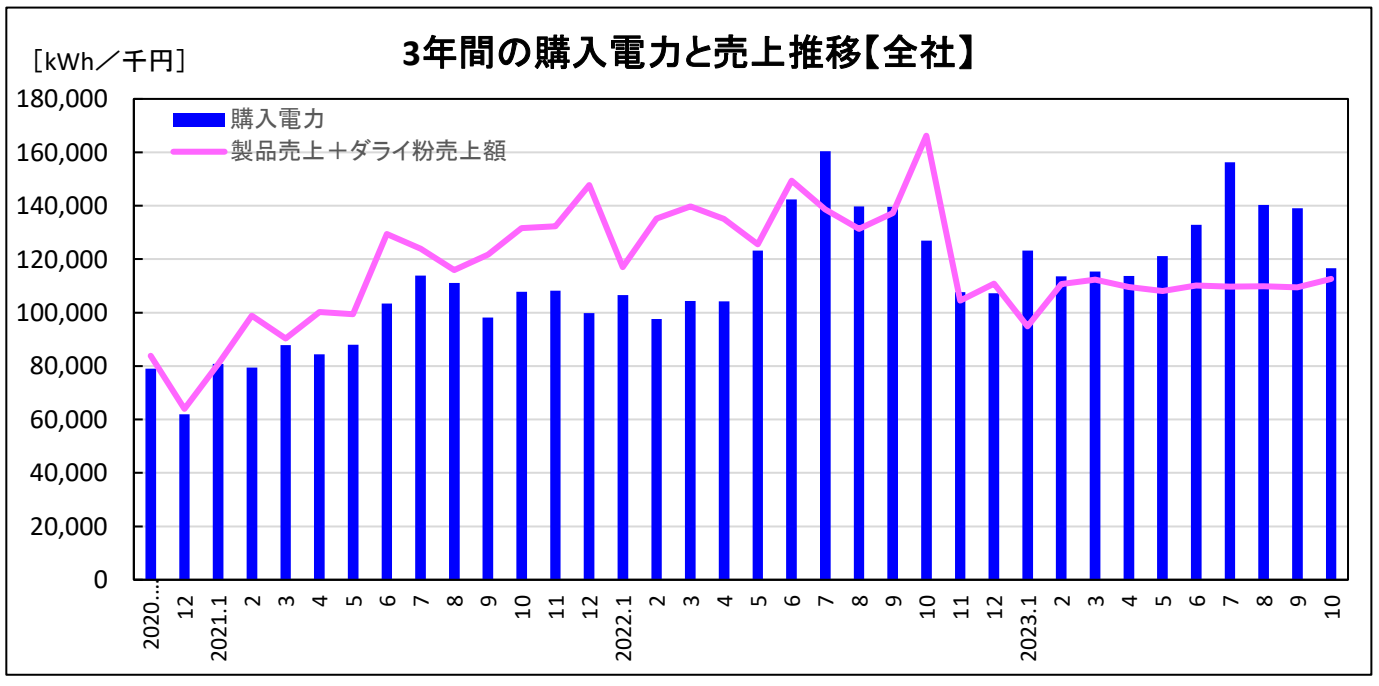
結果、ムダな残業はある程度削減出来たが、全員が100％申請する状態まで定着させることが難しかったため、残業報告制に切り替えて運用を継続している。来期は、品証でも導入を検討する。

また、もう少し生産管理を上手く行えれば、ムダな機械稼働や出勤日を抑えられる見込みであり、来期はそのシステム構築を行う。

○ エアコンの設定温度の順守

両工場とも、問題なし。第二工場においては、少し設定温度に余裕をもって運用できている。

評価　下図に示すように、工場に機械が目一杯設置され稼働している状態であれば、購入電力と売上（製品＋ダライ粉）額はほぼ連動していた。しかし、2022年5月からの仮操業後、今期より第二工場が本格稼働したタイミングで売上が低迷期に突入してしまったため、売上とは無関係に季節に合わせ、特に夏は購入電力がかさんでしまった。結果、目標は未達成。



2、廃棄物等排出量の削減

◎ ゴミの分別の徹底

本社工場は基本的には出来ているが、春より分別のスペシャリストが第二工場へ移動となってしまったため、少しずつレベルが落ちてきてしまったように感じるので、適宜管理部が声掛けを行っている。

第二工場は5Sを得意とする従業員を中心に配置を行ったため、ムダな廃棄物が発生していない。

＜第二工場のゴミ分別例＞

◎ ウエスの使用枚数の抑制

製品生産数の減少に合わせ、本社はウエスの納品セット数を4セットから3セットに見直した。 第二工場においては、製品生産数が増えてきた後半からは、最低セットの1セットのみとしている。

また、来期は製造部からの申し出があり、もう少し削減する方向である。

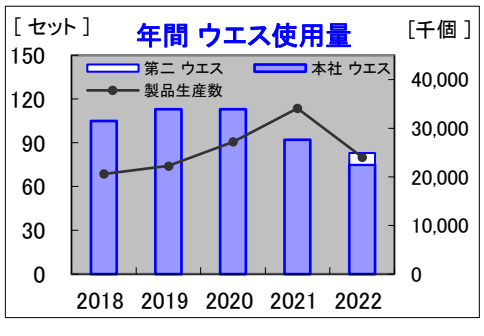
◎ 廃液の削減

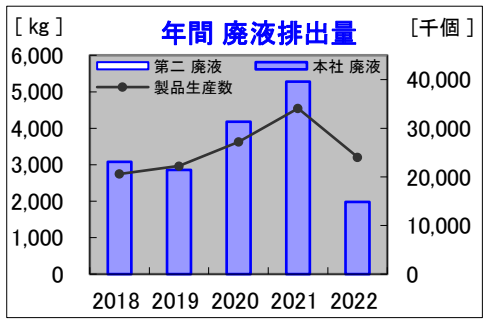
製品生産数が減少し、洗浄量が減少したため、必然的に使用量も減少した。第二工場は、まだ0である。

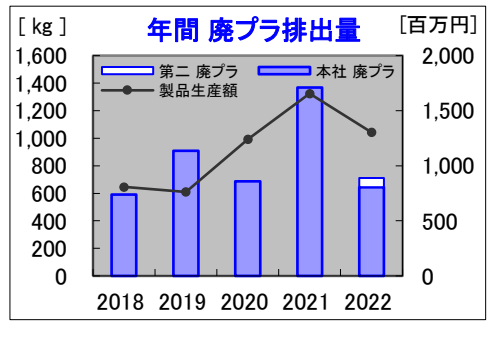
また、昨年度まで発生していた洗浄不良について、洗浄液を変更したことで改善傾向となり、再洗浄等の対応が不要となった。これによって廃液も削減された。

◎ 新たなゴミ削減策の検討と実施

新たなゴミ削減策は見付けられていないが、第二工場で徹底的にゴミを分別することで1年間の廃プラスチック量を65kgに抑えることに成功した。来期、本社工場から第二工場へ5Sの勉強として数名研修をさせることを検討している。







評価　上図はウエス、廃液、廃プラの年間総排出量と製品生産数または製品生産額を表している。これを見ても分かるように、どれも大幅な削減が出来ている。結果として、本社・全社とも売上百万円当たりの目標値を達成した。

3、水の使用量の削減

○ 個人目標の設定・掲示／達成度確認

今年度も個人目標の掲示を継続し、節水に取り組んだ。目標に掲げられた内容はほぼ達成されていて問題なし。

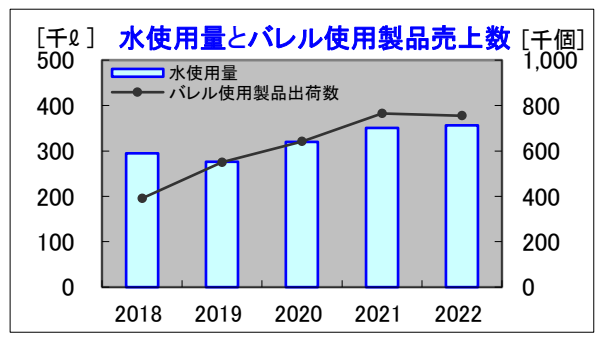
◎ 製造工程（バレル作業）での使用水のムダ防止

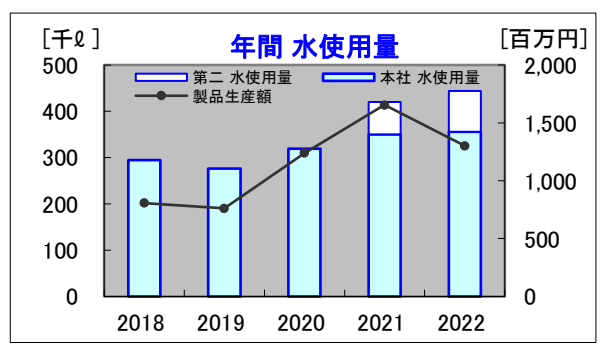
バレル作業は本社工場のみのため、右のグラフは本社工場の水使用量となっている。

総製品生産数は大幅減となっているが、バレル作業が必要な製品の出荷数については、昨年度765千個だったのに対し、今年度755千個とほぼ同数であり、水の使用量も同様にほぼ同量となっている。ムダ無く作業が出来た結果だと考える。

評価　上記のようにムダの無い生産活動は出来ているが、第二工場分が純増となってしまい、売上が落ちている今年度はどうしても売上百万円当たりの目標値が達成できない。

ムダな水使用を抑えつつ、売上の回復を図る。





4、化学物質使用量の削減

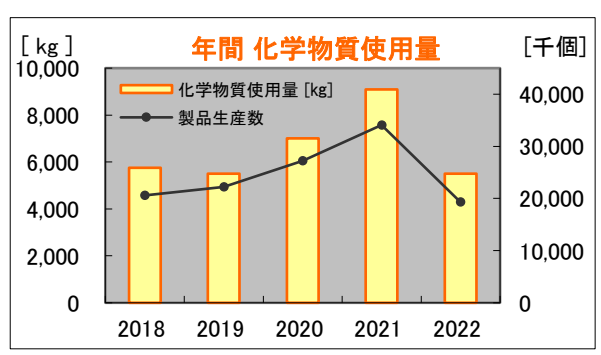
◎ 使用時以外は洗浄機の電源をおとす（蒸発抑制）

両工場とも電源をオフにすることは徹底されていた。

◎ 廃液を蒸留し再利用する

両工場とも廃液を蒸留し、再利用していた。

評価　2に記載したように、洗浄不良の問題も解決され、右のフラフを見てもムダの無い洗浄が行われているように思う。その結果、目標も達成された。



5、製品及びサービス向上（不適合品比率を抑える）

○ ルールを守る

防げるNG（ミス）を無くすことを目的とし、チェックシートや段取りチェックシート、定期メンテナンスなどが適切に運用されているか、毎日抜き打ちでチェックを行った。ルールが守られていない部分については、製造部長より定期的に指導を実施することで、ルールを定着させ、NGを未然に防ぐことが出来ていた。

また、ルールが明文化されていないものについては、ルールを明文化し、確認を行った。

○ 3Sの徹底

製造部での異品混入を予防するため、機械周辺の3Sを徹底すべく、毎日重点的にチェックを行った。適宜、製造部長より指導を行ったが、改善が見られなかった部分があった。そういった場合には、問題箇所を写真に撮り、個人面談の際に一緒に見ながら説明を行うことで改善を図った。

また、製品の油を切るザルについも以前は常に上向きだったが、異品混入を防ぐために使用時以外は逆さまにして置いておくように改善した。（従業員からの改善提案による）

○ 報・連・相を漏れなく行う

特に、品質異常が発生した際の品証への連絡や、日報への記入が正しく行えているかをチェックしたところ、品証への報告漏れが数件発生していた。したがって、なぜ品証への報告が必要なのか、なぜ発生したら直ちに報告しなければならないのかという点を、次工程以降の人たちの仕事内容を含めて説明を行い周知した。それでも尚、報告を怠る者がいるため、継続して注視していく。

	2021年度			2022年度		
	本社工場	第二工場	全社	本社工場	第二工場	全社
不良数	459,803	46,918	506,721	229,913	91,767	321,680
製作数	35,578,389	2,907,112	38,485,501	20,440,482	5,979,648	26,420,130
不適合品比率	1.29%	1.61%	1.32%	1.12%	1.53%	1.22%

評価　「ルールを守る」「3Sの徹底」「報・連・相を漏れなく行う」ことは社会人として当前のことであると同時に、これを全員に徹底させることは根気が必要なことでもある。しかし、徹底しさえすれば防げる不良がたくさんあることも事実であり、製造部長には根気強く対応してもらうようお願いした。

結果としては、本社工場、第二工場、全社、全てで不適合品比率は改善されているが、目標の1.00％を達成することが出来なかった。来期も1.00％以下を達成すべく、新たな計画を立てて取り組んでいく。

【５】代表者による全体評価と見直しの結果

中国のロックダウンの影響で受注ペースが落ちる見込みではあったが、予想以上に長期にわたって影響を受け続け、受注が低迷した1年であった。しかしこれを好機と捉え会社内部の問題に目を向け、不良率の低減や在庫管理システムの構築を行った。また、訪れたことが無かった既存取引先へ足を運び、じっくりと会話をすることで満足度の向上を図り、人脈のある営業担当を採用したことで弊社としては新規取引先となる企業を開拓することが出来た。見積依頼数は過去最高となっており、徐々に新規受注が増え始めている。

終わってみれば、決算の売上高としては前々年度より少し高い過去2番目の売上高を計上する形となった。ただ、前々年度と違うこととして機械稼働率の低さが挙げられる。1年を通して算出すると、本社工場は57％、第二工場においては31％とかなり低い稼働率となっている。

この機械稼働率を上げていくためには新規受注を獲得しなければならないが、前述のように見積依頼が殺到している状況であり、来年度は売上増加を見込んでいる。

環境経営計画の取組結果を評価を見ても、売上が低迷している中で様々な改善活動を行っており、売上百万円当たりの目標値は達成できなくとも年間の総排出量を削減出来ている部分が多々見受けられた。また、第二工場が軌道に乗れば、両工場で切磋琢磨することで、更なるエコアイデアが生まれることも大いに期待できる。既にガス使用量の削減に繋がっていることも確認できた。

来年度の課題としては、生産管理体制を整えること。受注が増加する前に基盤を構築し、過不足の無い材料発注、ムダの無い生産指示、ムダの無い機械稼働等が実行できる体制を整えることで飛躍の1年としたい。そうすることで、自然と環境経営目標の達成にも繋がると考えている。

【６】次年度の環境経営目標及び取組内容

≪環境経営目標（全社）≫（2023年11月～2024年10月の月平均値）

	項目	2022年度 実績	2023年度 目標	2024年度 目標	2025年度 目標
1(1)	二酸化炭素排出量の削減※ [kg-CO_2/売上百万円]	148.46	148.46	二酸化炭素排出量については 第二工場の稼働率により大きく変動（保留）	
1(2)	購入電力の削減 [kWh/売上百万円]	1,143.51	1,143.51	二酸化炭素排出量については 第二工場の稼働率により大きく変動（保留）	
2	廃棄物等排出量の削減 [kg/売上百万円]	5.43	5.38	5.32	5.27
3	水の使用量の削減 [ℓ/売上百万円]	341.08	337.67	334.26	330.85
4	化学物質使用量の削減 [kg/売上百万円]	5.37	5.32	5.26	5.21
5	不適合品比率[%]	1.22	1.12	1.02	0.92

※ 購入電力の排出係数 ⇒ 本社:0.000 kg-CO_2/kWh ，第二工場:0.452 kg-CO_2/kWh

・ 1については、第二工場がまだ本格稼働とは程遠い状態であり、2023年度に大きく変動する見込みである。この第二工場の状況を考慮し、次年度は今年度結果数値を目標とし、長期目標は保留とする。

・ 2～5については、今年度の結果から削減していく目標を設定する。

● 上記の全社目標を達成するため、本社工場及び第二工場の目標値を次のように設定した。

本社工場	項目	2022年度 実績	2023年度 目標	2024年度 目標	2025年度 目標
1(1)	二酸化炭素排出量の削減※ [kg-CO_2/売上百万円]	10.26	10.16	10.05	9.95
1(2)	購入電力の削減 [kWh/売上百万円]	954.21	944.67	935.13	925.58
2	廃棄物等排出量の削減 [kg/売上百万円]	5.23	5.18	5.13	5.07
3	水の使用量の削減 [ℓ/売上百万円]	312.59	309.46	306.34	303.21
4	化学物質使用量の削減 [kg/売上百万円]	4.76	4.71	4.66	4.62
5	不適合品比率[%]	1.12	1.07	1.02	0.97

※ 購入電力の排出係数 ⇒ プレミアムグリーンパワー㈱:0.000 kg-CO_2/kWh

第二工場	項目	2022年度 実績	2023年度 目標	2024年度 目標	2025年度 目標
1(1)	二酸化炭素排出量の削減※ [kg-CO_2/売上百万円]	1,177.61	1,177.61	二酸化炭素排出量については 第二工場の稼働率により大きく変動（保留）	
1(2)	購入電力の削減 [kWh/売上百万円]	2,603.01	2,603.01	二酸化炭素排出量については 第二工場の稼働率により大きく変動（保留）	
2	廃棄物等排出量の削減 [kg/売上百万円]	6.99	6.92	6.85	6.78
3	水の使用量の削減 [ℓ/売上百万円]	565.07	559.42	5553.77	548.12
4	化学物質使用量の削減 [kg/売上百万円]	10.72	10.61	10.51	10.40
5	不適合品比率[%]	1.53	1.40	1.27	1.14

※ 購入電力の排出係数 ⇒ 東京電力エナジーパートナー㈱:0.452 kg-CO_2/kWh

≪取組内容≫

第二工場は、社員の中でも5Sを得意とする人を配置したことで、ゴミの分別を始め、機械周りの整理整頓不足による不良品0を達成できている。そこにどのように本社から研修に向かわせるかを考え、実行に移したい。

また、基本の環境経営計画を継続しつつ、揺るぎない生産管理体制を構築することでムリムダの無い生産が行えるようシステムを作り上げていく。

その結果、既存・新規顧客の双方から新規受注を獲得することで、環境経営目標の達成が出来るように取り組んでいく。

【９】環境関連法規への違反、訴訟等の有無

確認項目		遵守結果
法律違反の有無	1.廃棄物の処理および清掃に関する法律	2023年12月現在違反無し
	2.羽村市美しいまちづくり基本条例	2023年12月現在違反無し
	3.都民の健康と安全を確保する環境に関する条例 （騒音規制法・振動規制法）	2023年12月現在違反無し
	4.東京都火災予防条例（消防法）	2023年12月現在違反無し
	5.化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	2023年12月現在違反無し
	6.特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）	2023年12月現在違反無し
	7.使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律 （小型家電リサイクル法）	2023年12月現在違反無し
	8.使用済自動車の再資源化等に関する法律 （自動車リサイクル法）	2023年12月現在違反無し
	9.フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律 （フロン排出抑制法）	2023年12月現在違反無し
	10.顧客要求事項(RoHS指令，REACH規制等)	2023年12月現在違反無し
訴訟の有無	環境関連訴訟	2023年12月現在違反無し

※関係当局よりの違反などの指摘は、2006年1月の認証・登録以降ありません。

idemitsu

再生可能エネルギー100%電力
供給証明書

三鎮工業株式会社　様 に対し、
「再生可能エネルギー100%電力」を供給したことを以下の通り証します。

1．お客様名　三鎮工業株式会社
2．ご使用場所　東京都羽村市神明台4－10－10
3．プラン名　プレミアムゼロプラン

【期　間】 2021年4月1日～2022年3月31日
【発行日】 2023年3月1日

【備考】
1．本証明書は、お客様と当社とのご契約期間（上記期間）において「再生可能エネルギー100%電力」を供給したことを証明するものです。
2．「プレミアムゼロプラン」は、再生可能エネルギー（FIT電気を含む）100%の電源構成に、当社が調達したトラッキング月非化石証書を組み合わせることで、再生可能エネルギー100%かつ CO_2 排出量をゼロとするプランです。
3．詳細な電源構成については、当社HPをご覧ください。
https://www.idemitsu.com/jp/business/green/igp/power_supply/index.html

東京都千代田区大手町1丁目2番1号
出光グリーンパワー株式会社

GREEN POWER　GREEN POWER